株式会社カコテクノス

平成28年度ひょうごオンリーワン企業 認定企業

株式会社カコテクノス

代表取締役社長 **加古 泰三** 氏

ものづくりは人づくり。人との和を基本に「止める技術」で社会に貢献を続ける。

PROFILE

1976年 神戸市生まれ。2000年３月に大学を卒業後、東京で大手通信会社勤務を経て2004年４月カコテクノス入社。大手メーカーへの出向、専務取締役、取締役副社長を歴任の後、2011年12月 代表取締役に就任。「会社発展のため大きな夢と強い意思を持ち、社員をけん引するリーダー」であるべく努力している。趣味は学生時代から続けているランニング。走ることも経営も「目標を持って取組むことで習慣が変わり結果が出る」を信条に、最近６年間は神戸マラソンや六甲全山縦走大会に参加している。

小野工場

―「ひょうごオンリーワン企業」認定を、社員の皆様はどう受け止めていらっしゃいますか？

弊社のビジョンは、全社員が誇れる会社になることです。誇れる会社とは、社員一人ひとりのモチベーションが高く、地域社会を含めたすべての人たちに「いい会社だね」と言っていただける企業であること。この度の認定は、そんな誇れる会社に近づいてきたということなのかと喜んでいます。採用活動においても、学生のみなさんに弊社をわかっていただく良い機会です。この認定に恥じないよう今後も精進を続けてゆきます。

― 鉄道車両や電力設備の制御機器メーカーとして実績を重ねられています

弊社の事業を表すキーワードは「止める技術」です。あらゆる環境の中、安全・安定・確実に電気や動きを止める技術で社会への貢献をめざしています。主な事業は、新幹線をはじめとする鉄道車両のためのブレーキシステムや制御装置の製造です。また電力事業では、工場から家庭まで電気を安全に送り届けるための各種装置の製造を手がけています。設計から製造・組立・試験まで一貫した体制を整え、雨やほこり、振動といった過酷な環境の中でもきちんと作動するためのハード面を支えながら、いずれの事業分野においても良いものづくりを通してお客様が望まれる以上の提案をめざしています。

― 鉄道車両用ブレーキ装置の国内生産シェア50%という御社の強みはどこにありますか？

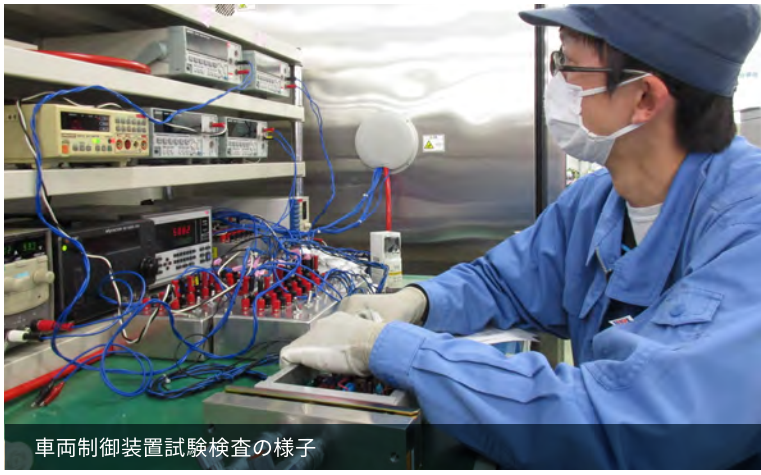
仕様書一枚で、設計から製造、検査まで一貫して社内で対応できることです。中でもいちばんの強みは、品質保

証まで行えることだと思っています。できあがった装置やシステムが正常に作動するか、他の機器との組合せによる不具合が出ないかなど、社内試験を行うのですが、弊社では品質保証を担当する社員が全国へ出向き現地で検証も行います。それも、耐環境性に応じたものづくりができる高度な技術力があればこそです。おかげさまで近年は、シェア50%で培った技術をブレーキ以外の分野でも望んでいただく機会が増えてきました。社員一人ひとりが自分たちの製品に誇りを持ち、いい製品をつくるんだという想いで取組んできたことが、今の結果につながっているのだと思っています。

― 創業から一貫して「人づくり」を大切にされていることも、大きな強みです

創業当時から弊社は、お客様が望まれた以上のものを提案し改善しようという思いのもと、社員全員で工夫しチャレンジする姿勢を大切にしてきました。技術を生みだすのは人であるという考えを、先代は「ヒューマンウェア・テクノロジー」と命名しましたが、私はこれを「和の精神をもって良い会社、誇れる会社をめざす」と解釈し、「不易流行」と言う言葉で表現しています。「不易」とは創業からの想いを継承し伝えること、「流行」とは時代の変化に応じた内容で経営に取組むということです。ものづくりとは、人づくりです。技術も想いも全社員が連携してものづくりに向かうために、弊社では「KAKO STANDARD（カコスタンダード）」と名付けた経営理念の手帳を作成し、行動規範やモラル教育の教科書として活用しています。

幹部研修の集合写真


車両制御装置試験検査の様子

―「ものづくりは、人づくり」という理念を具体的にお聞かせください

ブレーキは、安全・確実がもっとも重要なもの。不良は絶対に許されません。ちょっとしたミスが大きな事故につながりますから、重要視されるのは品質です。その品質を守るうえで最も大切なのは、人づくりであると思っています。なぜこのネジを締めるのか、どうしてマーキングが必要なのか、一つ一つの作業に意味があることを理解しないと、ただ手を動かすだけではミスにつながります。大切なのは、なぜこの作業が必要なのかを考えながら取組み「気づく」ことです。自ら考え行動し、気づける人間に成長することが、ミスをなくすことにつながってゆくのだと思っています。

― 気づくことの大切さを徹底するために、取組まれていることは何ですか？

昔から改善活動に取組んでいます。年間2,500件、社員一人あたりおよそ10件の報告が出てきます。また、身の回りから社内、社外に至るまで清掃にも積極的に取組むなど、基本的なことの徹底を大切にしています。シンプルなことですが、こうした人づくりの積み重ねが設計や製造のアイデアに生きてくるんです。３年に一回、社員全員にアンケート調査を行うのですが、近年は会社に対する関心度の高まりが伝わってくるようになりました。人づくりと技術向上はつながっていることを、社員も感じていることがわかります。弊社では日頃から、不良品を減らすのではなく「無くす」ことをめざしています。製造部門はいい製品をつくることが営業につながる意識を持ち、営業部門は品質に対する目標を持っています。不良を無く

車両制御装置組立の様子

すのは、こうした人の和だと気づくことです。人としての基本はすべてつながっていて、創業当時から受け継いできたものが今の形であることを実感しています。

―「人」という経営資源から、さらに生まれるものは何でしょうか？

人づくりの先にあるものは、人から生まれるアイデアです。最終的にはそのアイデアが投資につながってゆきます。弊社の設備投資は、すべて社員の提案から始まっているんです。例えば、2016年４月に板金加工エリア拡大のため、６つ目となる新工場を開設しました。現場設備の更新をずっと希望していた社員の提案を思いきって受け入れたんです。生産能力向上のため新たな機械を導入し、ベトナム人を５人採用しました。社員にとってみれば、自分の提案が形になったことでモチベーションが高まり、営業部門は工場を動かすためにも仕事をもっと生み出そうと思う……。業績アップにつながる流れができ上がります。すべてが「ヒューマンウェア」なんですね。駐車場にある車両は神戸電鉄様から譲り受けたものですが、これも社員のアイデアです。研修や一般見学に活用する一方で、自分たちは電車のブレーキ装置という重要な製品をつくっているんだという意識を持つためにも、安全のシンボルとして設置しています。

― 今後の展望をお聞かせください

2016年12月から新中期計画「2020年Vision」が始まりました。「自社の強みを結集し、新たな事業を創造しよう」をスローガンに、自社製品をさらに育てることをめざしています。自社製品を大切にすることは売上拡大の他に、言われる前に自分たちで行動を起こすという企業風土づくりへの想いを、社員一人ひとりが持つことにもつながります。時代は常に変化していますから、通常通りのことをしていては遅れてゆくだけ。自分たちが変わってゆくチャレンジを続けます。

―「オンリーワン」をめざす企業へのメッセージをお願いします

やるべきことをやり続けることが、最終的にオンリーワンに近づくことだと思います。社員一丸となって「基本」に取組み続けること。その先に、自社ならではのオンリーワンが見えてくるはずです。

車両制御装置部品加工の様子

TECHNOLOGY

鉄道車両を安全・安心に「止める」！　最先端の制御技術

事業の柱は交通コントロール事業「鉄道車両用制御システム」。新幹線、新型鉄道車両のブレーキシステムや、ATC（自動列車制御装置）、ATO（自動列車運転制御装置）といった保安機器、モニター装置・駆動装置などの、設計・製造・検査を一貫して手がける体制を構築しています。

新幹線をはじめ国内を走行する電車のおよそ半数が、株式会社カコテクノスの制御機器を搭載。この国内生産シェア50％の技術力を活かし、世界各国の鉄道における電気部品をはじめ発変電所の機器、さらには人工衛星といった宇宙分野まで製品が採用されるなど、止める技術の応用は電力や産業機器事業へも拡がっています。

鉄道車両の制御システムが設置されるのは、運転台や座席下といった車上機器の他、車両の下に位置する床下機器。雨やほこり、振動などの過酷な環境に耐えうる堅牢性が求められます。こうした環境耐性に活きるのが、株式会社カコテクノスの技術力の高さです。防水・防塵・耐震・耐久に対応するための構造設計と、ノイズ・低電圧に対応するための回路設計。それらの設計仕様に応じたものづくりから、設計技術と製造技術の融合による最適製品の提供、さらには品質保証につながる検査・検証まで、常に向上を心がけながら全部門が連携。安心・安全な社会創造に貢献すべく、より良い製品の製造をめざしています。

開発に至った経緯

1948年から電車ブレーキの機械加工をスタートした株式会社カコテクノス。以来、お客様の要望に応えるとともに最適なQCDの実現をめざし、1980年には設計から製造・検査までを引き受ける一貫体制化に着手。多数の設計者によるシステム提案が可能になり、止める技術を「パーツ」から「装置」「仕組み」へと高めてきました。それぞれの部門でフィードバックが可能になったことにより、社会インフラのニーズに応える新たな技術開発に挑戦しています。

独自性

株式会社カコテクノスの特長の一つが、社員50人で取組む検証体制です。製造したブレーキ装置や保安装置等の各種試験を、社内だけでなく現地へ出向いて自らの手で実施。製造だけにとどまらず、品質保証まで一貫して対応しています。さらに、現場で生まれたアイデアや改良のヒントを設計や製造部門にフィードバック。全社一丸となり、常に「全数良品」「不良ゼロ」をめざした品質管理を行っています。

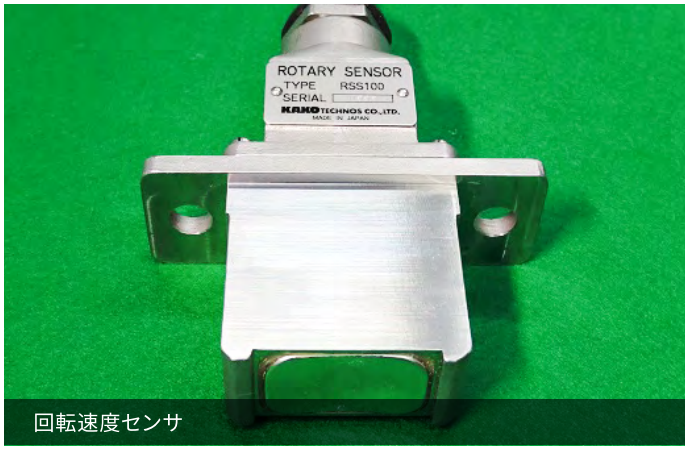
今後の展開

2016年４月に開設した新工場では、生産管理の効率をいっそう高めるため、既存工場と連携したIoTの構築を検討しています。今後はロボットの導入なども視野に入れ、効率も品質もさらにレベルアップしたものづくりに取組もうとしています。例えばその一つが、小型・軽量で堅牢性にすぐれた「回転速度センサ」です。近年のニーズの高まりに応えるかたちで生まれた自社製品のさらなる市場を開拓し、鉄道の安全性・快適性向上に貢献をめざしています。

TOPICS

2016年度「ひょうごNo.1ものづくり大賞」受賞！信号システムの次世代を担う「回転速度センサ」

自社製品「回転速度センサ」が2016年度「関西ものづくり新撰2016」ならびに「ひょうごNo.1ものづくり大賞」を受賞しました。列車に搭載し、モーターや車輪の回転速度を検知するもので、小型・軽量・耐環境性を確保。限られたスペースに太い検出コイルを多く巻回させることで高出力が可能になり、信頼性の向上も実現しました。現在までに2,000台を出荷。さらに今後は、次世代の信号システムに対応した極低速域でも検知可能なセンサの開発に取組んでいます。



回転速度センサ

「職域における創意工夫者表彰」ならびに「兵庫県技能顕功賞」を継続受賞！

2016年12月、兵庫工業会「職域における創意工夫者表彰」ならびに「兵庫県技能顕功賞」を受賞しました。両賞ともに代表者として賞を授与されたのは、株式会社カコテクノスの社員です。これにより、「職域における創意工夫者表彰」は20年連続（うち3回は文部科学大臣賞）、「兵庫県技能顕功賞」は14年連続の受賞となります。改善を心がけ、自ら考え行動するという目標にチャレンジを続けた成果であり、さらなる成長をめざしています。

兵庫県技能顕功賞 受賞

沿革

1935年 神戸市内で創立

1961年 加古工業所を株式会社として設立

1980年 小野市浄谷工業団地に小野工場開設

1984年 神戸市内に板金工場を開設し、一貫生産体制を整えた

2001年 サンテック株式会社設立

2003年 株式会社カコテクノスに社名変更

2011年 「ひょうご経営革新賞」受賞
神戸電鉄1117号車を譲渡いただく

2012年 「2011 KANSAIモノ作り元気企業100社」認定

2015年 経済産業省「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に選定

2016年 小野工場に新工場「E棟」を開設

会社概要

所在地 〒654-0024
兵庫県神戸市須磨区大田町7-4-2
電話 078-732-3851（代表）
FAX 078-732-3856
URL http://www.kako.co.jp/

従業員数 216名（2017年1月）
資本金 7,700万円
設立 1961年12月1日
（創業1935年）
代表取締役会長 加古公一
代表取締役社長 加古泰三

事業概要

鉄道車両用電気機器(制御機器・補助機器他)、電力送配電用機器(制御装置他)、産業用制御機器の設計、製作。機械及び板金部品の製作。